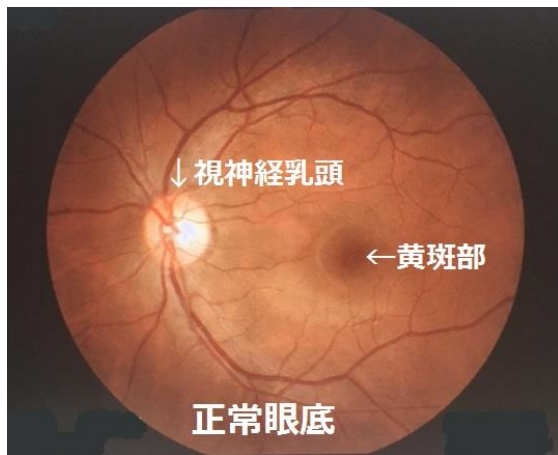


## 眼底検査について

眼底検査とは眼の底（奥）を詳しく診る検査です。



- ・ 高血圧や動脈硬化による眼底変化。
  - ・ 糖尿病網膜症
  - ・ 網膜血管閉塞による病変
  - ・ 加齢黄斑変性症などの黄斑部疾患
  - ・ 緑内障
  - ・ 網膜色素変性症などの網膜変性疾患
  - ・ 腫瘍
- など、発見することができます。

### 非散瞳での眼底検査（主に健診）

眼底カメラで眼底の写真を撮ります。

健診では主に、網膜血管と視神経乳頭を見ます。

網膜の血管は、体の中で唯一外から観察できる血管です。

そのため、動脈硬化、高血圧、糖尿病などで起こる全身の血管の変化を見ることができます。

しかし、広い範囲は検査できないので、あくまでスクリーニングです。

### 散瞳下での眼底検査

散瞳薬という瞳孔（瞳）を開く薬を点眼して、医師が直接眼底の観察をします。

散瞳剤を点眼すると、瞳が大きくなり、眼底の隅の方まで検査可能になり、また検査の時に強い光をあてても、縮瞳（※）せずに検査を続けられます。

（※瞳が小さくなり眼の奥が見えなくなる）

初診の方で、視力低下、飛蚊症で受診される方、糖尿病や高血圧がある方は、眼底検査があります。散瞳薬を使用すると、次のことが起こります。

- ・明るいところで瞳が小さくなる力が麻痺するので、まぶしくなります。
- ・ピントを合わせる力が麻痺するので、見えにくくなります。

個人差はありますが、半日ほど、車の運転や細かい仕事がしにくくなりますので、時間の余裕をもって来院してください。

